

人のご縁で でっかく 生きろ!

南クロフネカンパニー代表

中村 文昭

高校のとき、よく先生から言われました。「お前、高校生にもなつて夢がないのか。目標もないのか」って。あんまり言われるから途中から反撃に出まして、「じゃあ、先生の夢は何ですか?」と言ったんです。先生、黙っちゃいました。「ほくら、自分も持つていないのに夢を子どもに押しつけるのはやめて」って思いましたよ。子どもに夢を持つて、目標を持つて」と言う前に、大人が夢や目標を持つてキラキラ目を輝かせてよって僕は思います。

□ ■ ■ □

高校時代、僕は悪さばかりしていました。酒飲んでは謹慎をくらひ、たばこ吸つては謹慎をくらひ、パチンコに行けば見つかつて謹慎をくらひ、万引きしては停学をくらひました。

そのとき、生徒指導の先生から「頼むからもう学校に来ないでくれ」って言われました。

でも月日が流れると不思議な

人生ってページをめくって見つけるもんじゃないよ

◇13◇

ことが起きまして、「来ないでくれ」と言われた学校から、「頼むから講演に来てくれ」と言われるようになりました(笑)。

全国各地の中学校、高校から頼まれます。この前も

午前と午後の4日間、八つの学校で講演してきました。そのとき思ったんですけど、先生の雰囲気で学校の雰囲気はこんなにも違うのか、八つも学校を回るとそれはもう見事に分かります。学校を包む空気が違うんです。その空気を作つてい

る一番の大元は「先生」です。中にはとても荒れてい学校もありました。僕が行くと、バトカーがら台く

らい来ていまして、「何があつたんですか?」と聞いたら、「中村さんの話をどうしても聴かせたかつた生徒が今全員連行されて

いきました」とおっしゃつていました(笑)。

それでも講演中はスリッパがブーメランのようにあちこちで飛び交つていきましたが、僕自身がそういうことをやってきましてから、そんなことくらいでは負けんぞという気持

ちでしゃべりました。

自分がやってきたことをしゃべると子どもたちは後半から身を乗り出すように聴いてくれます。

□ ■ ■ □

高3のとき、「大学は無理やから専門学校に行くか、就職するかしかない」と言われて、先生が日本中の専門学校が載つてい本を見せてくれました。「どの学校に行つても何かの資格が取れて、その資格さえあれば仕事に就ける。この中から行きたい学校を選べ」「専門学校はいいぞ。入学試験はないし、親がカネだけ払つてくれたら行けるんだ。お前にびつたりだ」って。

僕は学校のお荷物だったのでどこでもいいから進路先が決まり、卒業させたら、先生たちも「よかった、よかった」という感じになるんでしょね。

でも、僕は言つたんです。「先生、俺、この本を見たんですけど、どれ一つとっても命を賭けてやりたい職業はありませんでした」

って。

人生って、ページをめくって見つけるようなものじゃないと僕は思つたんです。

(2月13日、高鍋町で行われた講演会にて/文責編集部)